ICGN
International Corporate Governance Network

「ICGN 年次総会 2019」概要

１．テーマ

「持続的な企業価値向上のためのコーポレート・ガバナンスの再検討」

２．日時・会場

2019 年 7 月 16 日（火）～18 日（木）

ホテルニューオータニ（東京）

〒102-8578　東京都千代田区紀尾井町 4 - 1

https://www.newotani.co.jp/tokyo/

３．主催　国際コーポレートガバナンス・ネットワーク(ICGN)

共催　株式会社日本取引所グループ、株式会社東京証券取引所

リード・パートナー　日本公認会計士協会

後援　金融庁、経済産業省、法務省、一般社団法人日本経済団体連合会
公益社団法人経済同友会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、公益社団法人日本監査役協会、一般社団法人日本 IR 協議会、日本証券業協会、一般社団法人日本取締役協会、商事法務研究会、想研

４．参加対象　企業、機関投資家、公認会計士、政府関係者等

５．プログラム内容は別紙をご参照ください。なお、以下のホームページで随時更新します。

https://www.icgn.org/agenda/2019-agm-conference-agenda

※コンファレンスは日本語同時通訳あり（ICGN 運営委員会及び年次総会は英語のみ）

６．申込方法：以下の ICGN のホームページから直接お申込みください。

https://www.icgn.org/node/2369/register

別紙

ICGN 年次総会（2019）

「持続的な企業価値向上のためのコーポレート・ガバナンスの再検討」

（スピーカー・プログラムは変更となる可能性があります）

【 1 日目：2019 年 7 月 16 日（火） 】

注意事項：コンファレンスでは日本語同時通訳があります。ICGN 運営委員会及び年次総会のみ英語で行われます。

08:00-16:00　参加者受付（「鶴の間」前）

【 ICGN 運営委員会・年次総会 】

運営委員会は、「ザ・メインアーケード階」の会議室で開催されます。ICGN 会員・非会員にかかわらず、参加可能です。

08:30-09:30　運営委員会セッションⅠ
取締役会ガバナンス委員会(Board Governance Committee) （場所：舞の間）
情報開示と透明性に関する委員会(Disclosure Transparency Committee)（場所：悠の間）

09:30-09:50　休憩

09:50-10:50　運営委員会セッションⅡ
株主責任に関する委員会（Shareholder responsibilities Committee）（場所：悠の間）
倫理・システミックリスク委員会（Ethics and Systematic Risk Committee）（場所：舞の間）

10:55-11:55　運営委員会セッションⅢ
ICGN 指名委員会（ICGN Nomination Committee）（場所：舞の間）
株主権利に関する委員会（Shareholder Right Committee）（場所：悠の間）

12:05-13:20　昼食（鶴の間　西）

13:30-15:30　ICGN 年次総会　（会員のみ参加可能）（場所：鶴の間　西）

15:30-15:55　休憩（鶴の間　東）

【 コンファレンス・セッション 】

基調講演、プレナリーセッションなどの全体イベントの開催場所は（鶴の間　西＜ザ・メイン宴会場階＞）となります。

16:00-16:15　開会の挨拶（場所：鶴の間　西）
宮原 幸一郎　　株式会社東京証券取引所　代表取締役社長　（日本）

16:15-16:30　歓迎の辞（ICGN）（場所：鶴の間　西）

16:30–16:45　基調講演（場所：鶴の間　西）
遠藤　俊英　　金融庁長官（日本）

16:45–18:00　プレナリー1：日本のコーポレート・ガバナンスの新時代
（場所：鶴の間　西）
日本では、2017 年のスチュワードシップ・コードの改訂に続き、2018 年にはコーポレートガバナンス・コードの改訂が行われた。コーポレートガバナンス・コードの改訂は、政策保有株式の縮減、取締役会の機能発揮、資本コストを意識した経営の促進など日本のコーポレート・ガバナンス改革を巡る課題を踏まえて行われたが、改訂が企業の取組みに対し実際にどのような影響をもたらしたかについて考察を行った上で、企業と投資家による長期的な企業価値向上を実現していくための今後の課題について議論を行うことを目指す。

導入スピーカー
三井　秀範　　金融庁　企画市場局長（日本）

スピーカー
泉谷　直木　　アサヒグループホールディングス株式会社　取締役会長兼取締役会議長
一般社団法人　日本 IR 協議会会長（日本）
菅野　暁　　アセットマネジメント One 株式会社　取締役社長（日本）
Anne-Marie Jourdan ICGN 理事、退職年金積立基金（FRR） Chief Legal Officer（フランス）

モデレーター
神田　秀樹　　学習院大学大学院法務研究科　教授（日本）

18:00–18:15　安倍晋三内閣総理大臣からのビデオメッセージ（場所：鶴の間　西）

18:15–19:00　記者会見（記者限定）　（場所：エド・ルーム）

18:30–20:00　歓迎レセプション　（場所：鶴の間　東）
（主催：Symphony Financial Partners）

【 2 日目 2019 年 7 月 17 日（水） 】

07:15-16:00　参加者受付（「鶴の間」前）

08:00-08:45 朝食セッション：企業の目的と企業利益との関連付け–共有価値の創造（主催：ネスレ社）（場所：麗の間）
長年にわたり、ネスレは「共有価値の創造（CSV）」の実現を目指すビジネスを追求してきた。この背景には、企業は、社会に対し価値を生み出しているとき、長期的なビジネス上の成功と持続可能な株主価値向上を実現できるという信念がある。近年、このような企業行動は財務的な改善にもつながるとの実証結果も増えている。このセッションでは、企業の目的（Purpose）を利益(Profit)と関連付けることが、社会に持続的でポジティブな影響を与えるだけでなく、企業価値の向上をもたらす結果にもつながるか否かについて議論する。

スピーカー
David Frick　　ネスレ社　Member of Executive Board（スイス）
Jen Sisson　　英財務報告カウンシル（FRC） Chief of Staff　（英国）
Charles Macek　アースウオッチ　Chairman（オーストラリア）

モデレーター
David Couldridge　ICGN 理事　インベステック・アセットマネジメント Head of ESG Engagement（南アフリカ）

09:00-09:15　歓迎の辞（2 日目）（場所：鶴の間　西）
Kerrie Waring　ICGN CEO

09:15-10:00　アセットオーナーとの基調対話セッション（場所：鶴の間　西）

スピーカー
水野　弘道　　年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）理事 兼 CIO （日本）

聞き手
Kerrie Waring　ICGN CEO　金融庁・東京証券取引所「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」メンバー

10:00-11:00　プレナリー2：サステナブルファイナンスを経済活動に結びつける
（場所：鶴の間　西）
2018 年 10 月に、国連の気候変動に関する政府間パネルは、地球への回復不能の損害を回避するための、十分な取組が進められていないとの警告を発した。実際に、二酸化炭素の排出

量の削減が実現されないどころか、石油、石炭、天然ガスの消費量は増加している。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- 政府は SDG s あるいは TCFD に基づく開示をどのように推進するのか
- 英イングランド銀行の先例に倣い、経営者に、気候変動リスクの責任を引き受けるよう求める規則を課すべきか。
- カナダのカーボン・オフセットの経験からどのような教訓を学べるのか。
- EU はサステナブルファイナンスと実体経済をいかに結び付けようとしているのか。

スピーカー

福本　拓也　　経済産業省　経済産業政策局　産業資金課長　兼　新規事業創造推進室（日本）
Sarah Breeden　イングランド銀行　International Banks Supervision, Executive Director（英国）
Barb Zvan　　オンタリオ州教職員年金基金　Chief Risk&Strategy Officer
Canada's Expert Panel on Sustainable Finance（カナダ）

モデレーター

Claudia Kruse　ICGN 理事、APG アセットマネジメント責任投資責任者 Managing Director
EU High Level Expert Group on Sustainable Finance（HLEG）委員（オランダ）

11:00-11:30　休憩（場所：鶴の間　東）

11:30-12:30　プレナリー3：独立社外取締役の権限と影響力の強化
（場所：鶴の間　西）

独立社外取締役は、会社の最善の利益に寄与するよう役割を果たすことが期待され、また、そうする中で、一般株主をはじめとするステークホルダーの意見を取締役会の議論に適切に反映することが期待されている。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

独立社外取締役について

- 過度に権力が集中している会長や CEO を牽制するため、その役割をどのように強化すればよいか。
- 取締役会が、その機能を真に発揮するための独立社外取締役の最適な割合は。
- 企業の持続的な成長を促し、中長期的な企業価値向上を図るという観点から、今の独立社外取締役は適切な資質を有しているか。

スピーカー

手代木　功　　塩野義製薬株式会社　代表取締役社長　（日本）
宇田　左近　　株式会社荏原製作所　独立社外取締役　取締役会議長（日本）
高山　与志子　　ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社
マネージングディレクタ、取締役（日本）
Carine Smith Ihenacho　ノルウェー中央銀行インベストメント・マネジメント
Chief Corporate Governance Officer （ノルウェー）

モデレーター

クリスティーナ・アメージャン　一橋大学大学院経営管理研究科　教授　（日本）

12:30–13:30　昼食（場所：鶴の間　東）

13:45–14:45　分科会セッション

（分科会 A）
グローバル化と日本：スチュワードシップとエンゲージメント成功への道
ーグローバル、ローカル、異文化間の視点からー
（主催：日本シェアホルダーサービス株式会社）（場所：鶴の間　西）
日本の大企業が成長を持続させるためには、さらなるグローバル化が不可欠である。日本のコーポレートガバナンス・コードは、企業の取締役会にイノベーション、効率性、収益力強化のための果断なリスクテイクを引き出すことを奨励するユニークな一面を持つ。本セッションは株主―企業間の建設的対話（エンゲージメント）における複雑な課題について持続的成長とダイナミックな企業アクションの視点から、法制度的や社会文化的側面にも触れながら焦点を当てていく。一連のコーポレート・ガバナンス改革によって日本企業のグローバル競争力は果たして高まるのか。

<u>スピーカー</u>
神山　直樹　　日興アセットマネジメント株式会社　チーフ・ストラテジスト　日本投資家フォーラム/スチュワードシップ研究会運営委員（日本）
小野塚　恵美　ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社　運用本部スチュワードシップ責任推進部長　日本投資家フォーラム/スチュワードシップ研究会メンバー（日本）
Jamie Allen　　ACGA Secretary General（オーストラリア）

<u>モデレーター</u>
今出　達也　　日本シェアホルダーサービス株式会社（JSS）　常務執行役員　（日本）

（分科会 B）
日本のコーポレート・ガバナンスの実際
ーボードダイバーシティと親子上場企業のグループガバナンスなどについてー
（主催：三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社）（場所：麗の間）
日本ではスチュワードシップ・コード並びにコーポレートガバナンス・コードが整備され、投資家と企業が直接的にエンゲージメント（対話）を行う機会も増えている。一方、新たなエンゲージメント・テーマがコーポレートガバナンス・コードに取り込まれることにより、エンゲージメント活動が更に活性化することも期待されている。パネルでは、現場・アカデミックな視点を踏まえ、中でも内外投資家から関心の高い最新のトピックである「ボードにおけるジェンダー・ダイバーシティ」と「親子上場」に関する活動の論点につきコーポレート・ガバナンス改革の方向性と絡めて討議したい

<u>スピーカー</u>
小林　喜光　　経済同友会（前）代表幹事
株式会社三菱ケミカルホールディングス取締役会長（日本）
神田　秀樹　　学習院大学大学院法務研究科　教授（日本）

<u>モデレーター</u>
堀井　浩之　　三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社　執行役員 スチュワードシップ推進部長（日本）

（分科会 C）

長期的展望に基づく企業文化・風土及び人材ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ（主催：EY）（場所：舞の間）

長期的な企業価値に関心のある経営層や投資家にとって、人材および企業文化は優先的な課題である。職場環境にテクノロジーによる大きな変化がもたらされる中、人材マネジメントにおけるベストプラクティスはどのように変化しているのか？日本企業は、健全な企業文化維持における取締役会の役割を強調したコーポレートガバナンス・コードの改訂をどのように解釈しているのか。Embankment Project for Inclusive Capitalism (EPIC)の取組みで実証されているように、無形資産の価値を測定することは困難ではあるが不可能ではない。では、共通の測定指標を使うことによって、企業文化と戦略が整合しているか否かに関する理解をどのように深めることができるのか？

<u>スピーカー</u>

菊地　麻緒子　　三井倉庫ホールディングス株式会社　社外監査役（日本）
Michael Jenkins　Human Capital Leadership Institute　CEO
Tan Jenn-Hui　Fidelity International　Head of Capital Markets and Corporate Governance,

<u>モデレーター</u>

Stephen Klemash　EY Americas Leader, Centre for Board Matters

（分科会 D）

信頼の力 ー個別非公開の対話は日本でのエンゲージメントにおける差別化要因となるか？（主催：GO インベストメントパートナーズおよび東京海上アセットマネジメント株式会社）（場所：悠の間）

いわゆるアクティビストの多くは、時には経営陣と会う前であっても、エンゲージメント・アジェンダを（マスメディア等を通じ）公開し、幅広く共有化する手法を取る。経営陣を自らの意見に従わせ、そしてそのことが外から見えない限り、本当にエンゲージメントしたことにはならないとの考え方がある。経営陣を自らの意見に従わせる考え方とは対照的に、日本版スチュワードシップ・コードでは、持続的成長を促すことを目的に、投資先企業や その事業環境等に関する深い理解に基づく建設的なエンゲージメントを促している。当パネルでは、過去 10 年に渡る日本における異なるエンゲージメント・モデルの有効性を検証し、信頼と個別非公開を尊重するモデルが、より持続的な長期的変化をもたらす可能性について議論する

<u>スピーカー</u>

田口　聡　　JXTG ホールディングス株式会社 取締役常務執行役員　（日本）
鈴木　一功　　早稲田大学大学院経営管理研究科　教授（日本）
前田　善三　　ガバナンス・フォー・オーナーズ・ジャパン株式会社 取締役
　　責任投資ディレクター（日本）

<u>モデレーター</u>

稲垣　佳奈　　東京特派員　フィナンシャルタイムズ（日本）

15:00–15:30　休憩（場所：鶴の間　東）

15:30–16:15　企業トップとの基調対話セッション（場所：鶴の間　西）

スピーカー
日比野　隆司　一般社団法人日本経済団体連合会　審議員会副議長／金融・資本市場委員長
株式会社大和証券グループ本社　取締役会長（日本）

聞き手
Kerrie Waring　ICGN CEO 金融庁・東京証券取引所「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」メンバー

16:30–17:30　プレナリー4：21 世紀の企業報告に向けた開示と監査/保証の改革
（場所：鶴の間　西）

日本では、長期的なリスクと機会への対処の観点から、企業報告の改革に向けた取組が進んでいる。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- 英国のストラテジックレポート等の他の改革などからどのような学びが得られるか。
- 規制当局者は、市場の信頼性・インテグリティ・透明性を確保するため、いかなる措置を取っているのか。
- 21 世紀の企業報告モデルにおいて、取締役会と経営者の果たす役割と責任とは。
- 企業報告の信頼性確保に向けて、どのように報告制度や報告プロセスを改善すればよいのか。

スピーカー
古澤　知之　金融庁　企画市場局　審議官（日本）
関根　愛子　日本公認会計士協会　会長（日本）
Tom Seidenstein　国際監査・保証基準審議会（IAASB）　議長（米国）
Stephen Haddrill　英財務報告カウンシル（FRC）CEO（英国）

モデレーター
Javier de Frutos　Sailbridge キャピタル CIO　（スペイン）
欧州アナリスト協会（EFFA）企業報告委員会議長

18:00–20:00　夕食会　（場所：鳳凰東中の間＜ガーデンタワー宴会場階＞）
（主催：Nuveen：米国大学教職員退職年金/保険基金（TIAA）グループ）

【 3 日目 2019 年 7 月 18 日（木）】

07:45-08:45　朝食セッション「期待と現実のギャップをどう埋めるか」–長期的な価値とリスクへの洞察を提供するための監査の進め方
（主催：KPMG）（場所：麗の間）
最近の調査では、現在の監査モデルが市場ニーズに対応していると考えている投資家、監査委員、および財務リーダーはわずか 50%にしか過ぎない。 改善の必要があると思われる。このセッションでは、監査人の任務と利害関係者および一般の方々の確実性を求める期待感との間のギャップを縮めるために、どのような方法があるかについて議論する。

<u>スピーカー</u>
大久保良夫　　日本証券業協会 国際関係懇談会議長（日本）
Bill O'Mara　　KPMG　Global Head of Audit（米国）
Anne Molyneux　ICGN 副議長　CS International Director（スイス）

<u>モデレーター</u>
金井　沢治　　有限責任 あずさ監査法人　副理事長　（日本）

09:00–09:30　カーボン・ニュートラル・プロジェクト（場所：鶴の間　西）
Kerrie Waring　ICGN　CEO
井口　譲二　　ICGN 理事　ニッセイアセットマネジメント株式会社チーフ・コーポレートガバナンス・オフィサー（日本）

09:30–10:00　基調講演（場所：鶴の間　西）
伊藤　邦雄　　一橋大学 CFO 教育研究センター長　一橋大学大学院特任教授（日本）

10:00–11:00　プレナリー5： 株主主義 VS ステークホルダー主義
ー最適なモデルを求めてー　（場所：鶴の間　西）
企業に対するステークホルダーの要求は一段と高まっている。これは、英国のコーポレートガバナンス・コードや米国で討議された「責任ある資本主義法案（Accountable Capitalism Act）」にも表れている。日本企業は、従業員の利益を（論者によっては、株主利益を犠牲にしてまでも）優先しがちである。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当て議論する。

- 取締役会は、株主および様々なステークホルダーの利益を考慮しながら、会社の成功をどのように推進するのか。
- 特定の利益集団が取締役会に存在する場合、取締役会はその責任をどのように果たすのか。
- コーポレートガバナンスにおけるチェック・アンド・バランスを行い、企業を責任ある行動に導くことができるのは誰か。株主かステークホルダーか。

スピーカー
北川 哲雄　　青山学院大学　名誉教授/首都大学東京　特任教授（日本）
Harry Keiley　　カリフォルニア州教職員退職年金基金（CalSTRS） Board Member Investment Committee Chairman（米国）
George Dallas　ICGN Policy Director（英国）

モデレーター
Margo Cook　　Nuveen アドバイザリー・サービス（米国大学教職員退職年金/保険基金（TIAA）グループ）　President（米国）

11:00-11:30　休憩（場所：鶴の間　東）

11:30-12:30　プレナリー6：コーポレートガバナンスの監督における、アセットオーナーとアセットマネジャーの役割・有効性（場所：鶴の間　西）
投資家のスチュワードシップという概念は、コーポレートガバナンスを効果的に監視するための規律として、世界の多くの市場で認知されている。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- 機関投資家のリーダーたちは、ベスト・プラクティスの原則が実務で活用されるために何をしているのか。
- アセットオーナーは、彼らの代理として活動するアセットマネジャーの評価をどれほどの確信度を持って行っているのか。
- 議決権行使やエンゲージメントを通じ、企業に責任ある行動を求める際に阻害要因となるものは何か。

スピーカー
Debby Blakey　　HESTA（スーパファンド）CEO（オーストラリア）
Ron Mock　　オンタリオ州教職員年金基金　CEO（カナダ）
Barbara Novick　　ブラックロック　共同創設者 兼　副会長　（米国）
西 啓介　　ニッセイアセットマネジメント株式会社　代表取締役社長（日本）

モデレーター
小平　龍四郎　　日本経済新聞アジア 総局委員（日本）

12:45-13:45 分科会セッション

（分科会 E）
透明性の時代における企業リーダーシップ（主催：MSCI）（場所：鶴の間　西）
透明性が問われる今、企業経営者への注目は更に高まっている。取締役会と市場が乖離することで企業の評判にダメージを与えるリスクが高まっており、投資家は新たな企業経営の脆弱性に向き合わなければならなくなっている。企業不祥事は増加しているものの、対応が遅

い企業も少なくない。本パネルでは、アジア太平洋地域の投資家や企業がどのような活動をしているか、これらのリスクに長期的にどう対処しようとしているかを議論する。

スピーカー
根本　直子　　アジア開発銀行研究所エコノミスト GPIF 経営委員 早稲田大学大学院経営管理研究科教授（日本）
立花　淳　　株式会社かんぽ生命保険　常務執行役員（日本）
Michael Man-Yeung Cheng　　MSCI　Executive Director　Head of Corporate Governance

モデレーター
内　誠一郎　　MSCI　マネージング・ディレクター（日本の MSCI 指数/ESG ビジネス責任者）（日本）

（分科会 F）
企業情報開示充実の流れを企業経営の質の向上につなげるために
（主催：デロイト・トウシュ・トーマツ・リミテッド）（場所：舞の間）
日本では、有価証券報告書の記述情報開示（財務情報以外の開示）充実施策とともに、会計監査人監査報告書での KAM 導入が決まっている。これらの施策は、投資家の企業に対する理解を深め、中長期的な企業価値向上に向けた投資家と企業の対話をより実効性のあるものにしていくことを企図している。こうした施策の意図は企業経営の改善に活かすことがその骨格にあり、それにより中長期的な企業価値創造につなげるためには取締役会によるリスクマネジメントの実効性強化がカギを握ることから、コーポレートガバナンスのより一層の高度化が実現することが期待される。当セッションでは、この問題意識について、企業の執行サイド、ガバナンスサイド、機関投資家とともに、海外の先行事例も交えながら議論を深めていきたい。

スピーカー
藤井　史朗　　MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社
取締役　副社長執行役員　グループ CFO（日本）
山本　高稔　　株式会社日立製作所　　社外取締役
東京エレクトロン株式会社　社外監査役（日本）
Karin Ri　　Asset Management One International　責任投資部 Specialist Director（英国）

モデレーター
國井　泰成　　有限責任監査法人トーマツ包括代表（日本）

（分科会 G）
持続的な企業価値向上のためのパッシブ投資家のエンゲージメント
（主催：アセットマネジメント ONE 株式会社）（場所：麗の間）
10 年以上にわたって、アクティブからパッシブ運用へのシフトが劇的に起きている。このようなシフトが投資家のエンゲージメント活動や企業経営にどのような変化をもたらすのか？ パッシブ・エンゲージメントの特徴は何か？　パッシブ投資の視点での持続的な企業価値向上の観点からのエンゲージメントの実例を、企業とアセットオーナーを交えてディスカッションする

スピーカー
岩田　圭一　　住友化学株式会社　代表取締役社長　（日本）銭谷 美幸　　第一生命保険株式会社　運用企画部部長兼責任投資推進部部長　エグゼクティブ・サステナブルファイナンス・スペシャリスト（日本）、
櫻本　惠　　アセットマネジメント ONE 株式会社　責任投資部チーフＥＳＧｱﾅﾘｽﾄ（日本）

モデレーター
大場　昭義　　日本投資顧問業協会　会長（日本）

（分科会 H）
株主権指令（Shareholder Right Directive）
（主催：ブロードリッジ）（場所：悠の間）
このセッションでは、専門家が EU 株主権利指令 (SRD II)の改正に伴う影響について、以下の点について議論を行う。

- EU の内外でこの新しい規制の影響を受けるのは誰なのか。
- 2020 年 9 月以前にコンプライアンスを確保するために何をする必要があるのか。
- 市場参加者はどのような投資をする必要があるのか。
- SRD II に利点はあるのか。または単に追加費用と負担になるのか。

スピーカー
今給黎　成夫　　株式会社 ICJ　代表取締役社長（日本）
森田　多恵子　　西村あさひ法律事務所　パートナー（日本）
Taran Bains　　Broadridge　Director Investor Governance

モデレーター
Michael Ross　　Broadridge Japan　Managing Director,

13:45–14:45 昼食（場所：鶴の間　東）

14:45–15:45　プレナリー7：不確実性の時代における、システミック・リスクに対する取締役会の責任（場所：鶴の間　西）
システミック・リスクは、通常の業務遂行のレベルを超える困難な課題を取締役会に突き付ける。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- 取締役会は、どの程度、気候変動、水不足、汚染、自然災害などの環境リスクに対処する体制を整えているのか。
- 移民問題により高まった社会的リスクなどがきっかけとなり、ポピュリズム運動が盛り上がっているが、取締役会はどのように対応するのか。
- 取締役会は、未来の在り方を決める自動運転や電子商取引のような技術革新に備える準備が、どれくらいできているのか。

スピーカー

淡輪　敏	三井化学株式会社　代表取締役社長　（日本）
スコット　キャロン	いちご株式会社　代表執行役会長（日本）
Blair Cowper-Smith	Erin Park Business Solutions　創設者・Principal　（カナダ） 社外取締役（Hydro One 社）
Louise Davidson	豪州退職年金投資家協会（ACSI）　CEO（オーストラリア）

モデレーター

Robert Walker	ICGN 理事　NEI インベストメント　Global Consultant（カナダ）

15:45–16:15　休憩（場所：鶴の間　東）

16:15–17:15　プレナリー8：2020 年以降の未来（場所：鶴の間　西）

マーケットがグローバル化し、新しい環境・技術・人口動態の変化に適応していくにつれて、コーポレート・ガバナンスと責任投資も進化する必要がある。この社会の変化は、将来に不確実性をもたらす一方で機会ももたらす。人口の高齢化や貧富の格差が社会の分断をもたらしている。経済力は欧米からアジア地域へとシフトしているが、どちらの地域においても、気候変動にどのように対処するか、という課題に直面している。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- 上記の状況は、ビジネス、投資活動、規制にどのような影響をもたらすか。
- 2020 年以降の未来は、どのように姿になのか？

スピーカー

David Semaya	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 取締役会長（共同）
Charles T. Canfield	国際金融公社（ IFC）　コーポレートガバナンスグループ Principal Corporate Governance Officer（米国）
Emily Woodland	AMP キャピタル　Co-Head of Sustainable Investment（香港）
Sacha Sadan	リーガル＆ジェネラル・インベストメント・マネジメント Director of Corporate Governance （英国）

モデレーター

Carola van Lamoen	ICGN 取締役ガバナンス委員会議長、ロベコ・アセットマネジメント Head of Active Ownership（オランダ）

17:15–17:30　ICGN 年次総会引継ぎ式（閉会の辞）（場所：鶴の間　西）

小沼 泰之	株式会社東京証券取引所　取締役常務執行役員（日本）
Ron Mock	オンタリオ州教職員年金基金　CEO（カナダ）

18:00–20:00　カナダ大使館でのクロージング・レセプション（場所：カナダ大使館）
（主催：オンタリオ州教職員年金基金　）